

抜かないために、

歯の健康維持に貢献



医局旅行にて

みが出たりします。

平尾さんはこの研究室で歯髄炎について研究しています。

むし歯が進むと歯の中の血管と神経が通っている歯髄という部分が虫歯菌などの細菌に反応して炎症をおこします。こうなると、歯髄を除去しなければなりません。一般的に、歯の神経を抜くといわれる治療は、この歯髄を除去することです。

治療には、歯髄を除去した後で歯髄があつた部分を詰めますが、歯髄を除去した歯は脆くなるなど問題

点があります。

平尾さんたちは、この細菌を認識するシセプターとなるタンパク質について研究し、できるだけ神経をとらずに歯を健康なまま残そうと取り組んでいます。

気さくでオープンな研究室

研究室には松尾先生も含めて15名(うち4名が大学院生―取材時点)のメンバーが所属。

「松尾先生はとても気さくで、良い意味で教授らしくない方です」学生からも声をかけやすく、いろいろな相談にも気軽にのつてくれます。研究室のメンバーは、時には気の合う仲間で出かけたり、オープンで和気あいあとした雰囲気です。

平尾さんとは両親が徳島出身ですが、生まれは大阪です。何か研究がしたいと思っていたこととお母さんが薬剤師ということもあり歯学部を選択しました。大学時代は「歯科研究会」でサー

クル活動。部長も務めました。歯科研究会は幼稚園で歯みがきの指導をするなどのボランティア活動をしています。

「学生の間実際に患者さんと接するということには少ないために、このボランティア活動はよい経験にもなるんですよ」

また写真が趣味で、時々徳島の美しい風景を撮りに出かけます。将来は大学に残って研究を続けたいそうです。

健康な歯をいつまでも

80歳をこえても自分の歯を残そうと、厚生省(現厚生労働省)と日本歯科医師会の提唱で始まった8020(80歳で20本以上残す)という運動がありますが、この健康な歯を維持していくという事に貢献しているのが歯学部です。中でも歯科保存学という分野はその名の通り、いかにして健康な歯を保持するかという研究をテーマとしています。

松尾敬志先生(教授)を中心に、歯科保存学分野では、歯の病気のスタートとなるむし歯、歯を支える骨に発生する歯周病や歯周病と全身疾患との関係、歯の神経で起こる歯髄炎、また知覚過敏について研究しています。

むし歯は甘いものが虫歯菌(ミュータンス菌)によって酸となり、歯を溶かしていくというのはいく知られていることですが、メカニズムの全容が解明されているわけではありません。これをDNA(遺伝子)のレベルまで深めて研究しています。

歯の疾病について

むし歯を予防する手段として一般的なのはブラッシング(歯みがき)ですが、最低でも寝る前に3分以上、しっかりときれいに磨くことを指導しています。また幼児期のカルシウムの摂取(大人になってではおそい)も大切だそうです。

歯周病は歯磨き粉や歯ブラシの宣伝などで良く耳にする病名ですが、歯を支える骨や歯ぐきが多数のサイトカイン(細胞間で情報伝達を行うタンパク質の総称)の相互作用により溶けて破壊されていく病気です。

歯と歯の間や歯と歯肉のすき間に歯垢や歯石がたまると赤くはれて歯肉炎を起こします。それを放置すると、歯の基礎部分にあたる歯槽骨が溶け出し歯周炎となり、膿(う)

